

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年10月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490100223		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ広島亀山		
所在地	広島市安佐北区亀山2丁目15番33号		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島安佐北区口田南4丁目46番9号
訪問調査日	平成22年10月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員として、穏やかな日々を送って頂けるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地郊外、畑地が点在する住宅地に位置しています。開設以後経営母体の法人の入れ替わりがあったものの、利用者は、認知症の支援に厚い心情を持たれている開設当初からの職員を中心に穏やかなチームワークで支援されています。ホーム長はじめ職員の弛まぬ努力もあり、豊かな自然のたたずまいのある近隣地域の人々の受け入れは暖かく、ホームの目指している地域密着の施設として安心安全を保ちながら、和やかな介護が継続されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	機会がある毎に自治会、町内会への説明を行い、他ホームよりの見学申し出も受けています。また職員は毎日の申し送り時、唱和し各自が業務中理念を思い起こしながら実践に向けて取り組んでいます。	ホーム理念をもとに各ユニット毎に実践しやすく、親しみのある言葉で理念をつくり、掲示されてグループリーダーを中心に唱和されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており秋祭り等の行事に積極的に参加しています。また毎月地域にある神社の催し物にも参加しています。	町内会に加入し、回覧板により行事や地域の現状を把握しホーム長が特に中心になって清掃や地域防災訓練に参加している。町内のお祭りには利用者も一緒に参加し楽しめとされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年初めて地域の4G・H合同の交流秋祭りを開催		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度開催しています。ご家族、民生委員、町内会長等のご意見、提案等頂いています。その内容をミーティングで話し合いサービスの向上に向け、実践しています。	運営推進会議は利用者代表、多数の家族、地域包括、かかりつけ医関係者、市介護保険課、民生委員、ホームのオーナー、町内会長、地域社協等20名前後の参加を得て各方面からの参考意見が汲み取れ、有意義に進められている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議開催のご案内、報告等を定期的に行っています。	運営推進会議には必ず介護保険課よりの出席があり、保健制度上の質問等日常的に気軽に質問が出来る関係が保たれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員身体拘束の研修を受けており、玄関及びユニットの入口もいつも開閉できるようにしてあります。	運営法人よりも身体拘束排除の方針が徹底され、ホーム利用者は自由に出入り可能な環境が整えられている。危険を伴う外出の希望や徘徊については職員が行動を伴にし細心の注意をしている。近隣地域にも利用者の生活状況が説明され理解や協力を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全員が高齢者虐待防止法について学ぶ意識を持ち、あってはならない事なので防止に努めています。また虐待についての研修会等積極的に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修を受講しそれをホーム会議等で全職員共有するようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	介護計画書作成、見直し時はご家族に十分説明し納得して頂き、同意のサイン、印を頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を窓口を設置しており、職員にも言いやすい環境を作っています。意見、苦情等あればミーティングで話し合い反映させています。	家族訪問者は日常的に多く、長く親しく付き合いが続けられ、自由に意見を頂いている。又特に二階「ひなぎく」に於いては利用者が活発に発言され意見が汲み取れやすいが現況があり支援に繋がっていない。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は職員の意見や提案を聞く機会を持ち通達等で反映させています。	各階のホームリーダーを中心に各ユニットの協力体制が整えられ、職員の自由な意見がまとめられホーム長、続いて運営法人へも伝えられる仕組みがある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	体と心の健康づくりの相談窓口を設けて職員の悩みを改善するようにしています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外の研修の情報を提供しホーム会議等で全職員が共有できるよう進めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
工場					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約から入居までにご本人の意向等を聞きながら、今までの生活スタイルをゆっくりと安心して話していただけるよう努力しています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の悩みや不安等を(面会時や電話等)しっかり聞くように努めています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>管理者、介護支援専門員、ご家族様との話し合いにより支援内容の希望等を聞きそれを基にケアプランを作成しご家族様に説明しています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムを見極めてその方に合った会話をしたりし、日々穏やかに過ごして頂き、人生の先輩である入居者様から様々な事を学びます。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族様の協力の下、イベントや行事参加を行っています。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人の馴染みの物等大切にしています。また昔話をしたり面会時にはしっかり関わっていただけるよう、支援します。</p>	<p>家族訪問者が多くあり、家族と外食されたり、家族に囲まれて一時帰宅をされる利用者もある。季節毎の身の回りの備品の持ちこみ等もある。又近隣の幼稚園児との交流、近隣のお寺さんの来訪による説法は大変喜ばれている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>日常生活の中で利用者同士のよい関係ができるよう、また楽しめるようなレク等を考え実行しています。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退去された利用者様のご家族様とお会いしたときは近況等をお聞きしたりしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりを把握する為、ご家族様より小さな事でも聞き取り計画作成し、それに添って支援しています。	職員は担当制となり利用者や家族との人間関係を密に築き希望や意向を表出しやすくしている。	2名の利用者には帰宅願望をリハビリのチャンスと捉え、かかりつけ医院のOTの指導とメニューを基に職員の手助で筋力アップのリハビリが行われ、歩行能力が進み家族より感謝の言葉が寄せられている。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にアセスメントを行い本人やご家族様からの情報を把握しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの心身状態を把握し無理のないよう日常生活を送って頂いています。また有する能力を後退しないよう見守ります。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人家族を含め再アセスメントを行い求められている事を把握し一人ひとりのニーズに合わせた介護計画書を作成し見直し前にモニタリングを行い継続の必要性を考慮し計画作成しています。	担当制がとられている職員は利用者や家族と親密に相談し合い其々の意見を把握しケアマネと協力のもとにニーズを反映した計画書の作成を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人ひとりの生活習慣の把握と日々のケアの様子等詳しく記録に残しています。必要に応じて介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	対応できないサービスもご家族様の要望があれば、同一法人の他事業所が柔軟に対応できます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年2回消防署の方々の協力で避難訓練、消防訓練等実施しております。また地域にある傾聴ボランティアの方々に来訪していただいています。また地域の幼稚園児との合同芋ほり会に参加しています。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回提携医の往診を受けています。急変時は24時間サポート対応していただいています。	提携医は近隣地域にあり月2回の往診があり、訪問看護指示体制も確実にされ、又運営推進会議にも出席される等大変協力的な対応をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療連携を結んでいます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院設備があり月2回の往診で利用者の身体状態を把握している。入院された時は出来るだけ面会に行き様子を伺っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した時は常時、提携医、訪問看護師に相談し指示を仰ぎ、ご家族様とも連絡相談しています。全職員指示は共有しています。契約時重度化及び看取りに関する指針同意書を交わし説明しています。	重度化された時の対応は家族と連絡を取りながら提携医、訪問看護師の指示を全員で共有して対処している。過去急変による1人のホームでの看取りを経験したが職員全員が協力体制で他の利用者に影響を及ぼすことなく臨むことができた。	今後も利用者の高齢化に向けて本人家族等の意向を十分に聞き取りされ提携医との協力体制の方針を明確にされることが望まれます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	広島市消防局実施の救命講習など受講しています。また緊急時対応マニュアルを作成しております。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いてい	町内会主催の災害訓練等参加するようにしています。また地域の方々の協力も得られるよう働きかけています。	年2回の消防署指導のもとに消防訓練、避難訓練は実行され、又地域の防災訓練にも参加されている。	地域防災訓練に参加されることで、避難場所を職員全員が把握していることは有意義で地域密着の施設として特記したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の尊厳を傷つけないよう言葉使いに気をつけています。個人情報厳重に管理しています。	日中は布パンツ、夜間のみを紙パンツ着用とし排泄の自立を目指す努力をしながら、さりげないやさしい誘導でトイレ介助が行われている。個人情報の管理は母体法人の方針に沿って守られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望や意思を尊重し本人に判断を委ね押し付けにならないよう声かけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支	一日の生活の流れは決めているが希望に添った支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に出張理美容サービスにきて頂いています。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好を把握し献立を考えたり、変更したりしています。また野菜の皮むき、配膳片付け等スタッフと一緒に出来ることを提供しています。	各ユニット毎の献立委員が決められ利用者の好みを取り入れた家庭料理のメニューをつくっている。ユニット毎に異なったメニューとなり食材の買い物も利用者の散歩を兼ねて行うようにし、食事への楽しみに反映させている。おやつはレクレーションとして利用者と共に作ることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量や水分量のチェックは毎日行い記録し摂取できるよう、職員同士話し合いながら提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できる利用者様には自分で口腔ケアしていただき、出来ない利用者様は職員が介助して行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりのパターンを把握し時間ごとに声かけしたりしてトイレ誘導しています。	利用者が出来るだけ「自然着用の布パンツで過ごして頂けるように」とのホームの方針を基にトイレ誘導のきめ細かい声かけがされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事、水分、運動に配慮しています。排便の有無を確認し便秘にならないよう薬等利用してコントロールしています。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の希望に添い入浴していただいています。	お風呂札が作られ、二日に一回入浴されるパターンが作られているが、希望されればいつでも入浴に応じている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの様子を見て昼食後にはなるべく横になって休んで頂くよう声かけしています。夜は20時過ぎには居室に戻られ、入眠されたりテレビを見たりされています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の病歴等理解しており薬の種類、目的は処方される毎に確認しております。また薬剤師の方の指示も受けております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援	日常生活の中で出来ることはお手伝い頂き、役割をもって楽しい生活が出来るよう一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう、支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候のよい時期やお天気お見ながら利用者様の体調を見て、戸外への散歩を行っています。また本人様の希望等により普段行けない所や馴染みの場所にご家族様の協力で外出する機会を作っています。	近隣は農地も点在し、地域の方より農作物の収穫(いも掘り等)に招かれることもあり、外出支援として利用者に喜ばれている。日常的には気候に合わせて散歩を買い物を兼ねた外出を行っている。家族の訪問者も多く、家族と度々外出される方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは事務所で管理しており、欲しいものがある時は職員と一緒に買い物に行ったりしています。また買ってきて欲しいと依頼されることもあります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話もかけていただいております。また、手紙のやりとりも自由にできるよう支援しています。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月季節にあった物を利用者様と作ってリビングに貼り出しています。共有でくつろげる空間がありソファを置き和室も自由に過ごせます。	利用者職員合作の貼り絵がリビングに張られ、当日は南に面した明るい窓際のソファに利用者の方は笑顔で寛がれている情景があった。一階のベランダのガラス扉は開放され、ホームで育てられている畑作物の様子も外気に触れつつ自由に眺める事が出来て季節感が身近に感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、テレビ、テーブルがあり利用者同士が思い思いに過ごされています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使われていた馴染みのある家具や生活調度品を置き安心して過ごせる場所です。	家庭より使い慣れた椅子やサイドボードが居室に合わせて持ちこまれ、その人らしい生活のパターンが各々の居室で感じ取れる。男性の居室は殆どがシンプルに感じ取れた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。			

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

ニチイのほほえみ広島亀山

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイほほえみ広島亀山

作成日 平成22年10月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活性化	地域連携を密にし、ホームのサービスに繋げる	見識者の参加を促進し、意見など取り入れる	3ヶ月
2	35	夜間火災時の対応	火災時は全員避難	消防署を交えた年2回の訓練	3ヶ月
3	13	職員のスキルアップ、育成	介護福祉士資格取得者を増す	研修等利用し勉強会の実施	3ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。